

令和7年度 (小松島支援) 学校の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 (和田 佳子)

研究テーマ	『児童生徒が「分かる」「できる」授業づくり』 ～「目指す姿」を実現するための手立ての工夫を通して～(研究2年次) ※「目指す姿」とは、各教科の指導内容に対しての到達目標として、「個別に評価するための基準」となるもの。
研究目標	個別の指導計画で設定した「目指す姿」を、実現するための「個の実態と手立ての工夫」に着目した指導の在り方を検証する。
研究内容・方法 研究計画等	1 授業づくりに関する研修会の実施 2 対象児童生徒を一人決め、二学期の個別の指導計画の「目指す姿」を設定する。 3 目指す姿と手立てに焦点を当て、指導略案を作成する。 4 各学級、1授業を行い、動画で撮影をする。 5 グループ毎に動画を見ながら事後検討会を行う。 6 事後検討会后、学級毎に成果と課題をまとめる。 7 学部毎に、グループで話し合われた情報を共有する。(動画を用いる。) 8 全体発表会で、学部での成果と課題について動画を用いて発表する。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<研究の重点> (1) 整備見直しを行った年間指導計画並びに個別の指導計画に基づく授業づくりに関する研修会を実施する。 (2) 児童生徒の目指す姿と手立てに焦点を当てた指導略案の作成を行う。 ※児童生徒の実態、手立て、本時の目指す姿の明記された指導略案を作成し、焦点化する。 (3) 指導略案に基づく授業実践を行い、動画を撮影する。 (4) 小・中・高の各学部内でグループを作り、事後検討会を実施する。 (動画を用いて児童生徒の様子を見ながら実施。) (5) 児童生徒の「分かる」「できる」につながる授業づくりに生かす。 (6) 成果と課題をまとめる。 <成果と課題> (小・中学部のアンケート結果より) ・授業づくり研修会について ○約9割の先生方が授業づくりにつながったと回答。 ▲「的確な実態把握」「適切な内容設定」「分かる・できるにつながる」という研修の内容だったが、研修内容がその後の授業づくりにつながっていないと感じたという意見があった。

	<ul style="list-style-type: none">・指導略案について<ul style="list-style-type: none">○昨年度の反省から、児童生徒の「本時の目指す姿」の達成に向けた授業づくりに焦点化したものに修正した。概ね良いという意見だった。▲実態を記入する際、最低限入れなければならない情報を提示したほうが良いという意見があった。 ・動画を用いた事後検討会について<ul style="list-style-type: none">○約9割の先生方が撮影した動画を見ながら事後検討会を行ったことについて、よかったと回答。▲「授業を実際に見たかった」「動画と参観をグループで選べるとよかった」という意見があった。 <p>小・中学部は昨年度から継続した研究だったので、「見通しをもって取り組むことができた。」「国語・数学（算数）の授業づくりについて、みんなで意見を出し合うことができた。」「昨年よりも教科学習を行うことへの抵抗感が減った。」という意見が多かった。また、進め方を工夫し授業が深まったというグループもあった。</p> <p>その反面、「テーマは良かったが検証方法について吟味が必要」という意見があり、来年度の研究に向けて課題が残った。</p>
--	--

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。